

： 発刊に寄せて ：

このたびは、「薬剤師のためのいちばんやさしい栄養療法の本」を手にとっていただきありがとうございます。本書は、これから栄養について学びたい若手薬剤師やレジデントから、栄養サポートチームで日々患者さんの栄養について薬剤師の視点から関わっておられる方まで、学びを広げ、知識を深めることができる一冊となっています。

薬学教育が4年制から6年制となり20年が経過しました。学習カリキュラムでは、薬学生が栄養について学習する機会は増えつつあるものの、いまだに十分とはいえないのが現状です。また、臨床で直面する課題に対して薬剤師が学びやすい書籍が充実しているとはいえないなか、本書の編集にあたることとなりました。

本書は、全6章で構成されています。まず、第1章と第2章で栄養療法に関する基本を学習します。そして栄養投与経路別に経腸栄養、静脈栄養と学び、第5章では栄養療法を病態ごとに学べるように構成しました。また、第6章では臨床現場で実際に薬剤師がどのように対象者の栄養療法について考え、実践しているのかを余すことなくまとめることができました。

特筆すべきは、薬剤師だけでなく、現在栄養療法の第一線で活躍されている医師、看護師に解説いただくとともに、管理栄養士の先生方には栄養療法を理解するための最短距離を解説していただいています。さらに、服薬指導の場面でも話題になる、食事に関するポイントを学ぶことができる実践的な内容となっています。近年、管理栄養士が在籍する保険薬局も少しずつ増えており、本書は薬剤師だけでなく管理栄養士・栄養士にとっても、薬学的視点に触れることができる良書であると確信しています。

低栄養の診断基準が設けられるなど栄養を取り巻く環境も大きく変化しており、医薬品の経腸栄養剤の保険適用要件の見直しがされるなど、保険薬局でも患者さんの栄養評価が喫緊の課題となっています。また、薬剤総合評価調整加算も見直され、ポリファーマシー対策への介入強化も重要です。私自身は、すべての薬剤師が栄養療法の知識を深めることがこれらの課題の緒^{いとぐち}となると信じてやみません。

本書が、2025年に発刊されている「薬剤師のためのいちばんやさしい輸液管理の本」とともに、多くの先生方にとって価値ある一冊となり、患者さんや身近な方への栄養療法の支えになることを願っています。

2026年9月

滋賀医科大学医学部附属病院薬剤部 副薬剤部長
神谷 貴樹